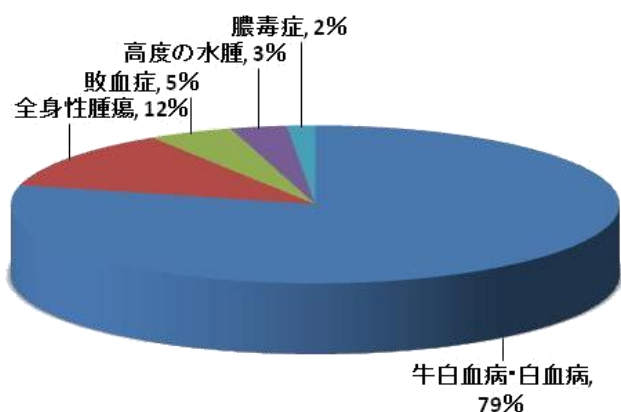


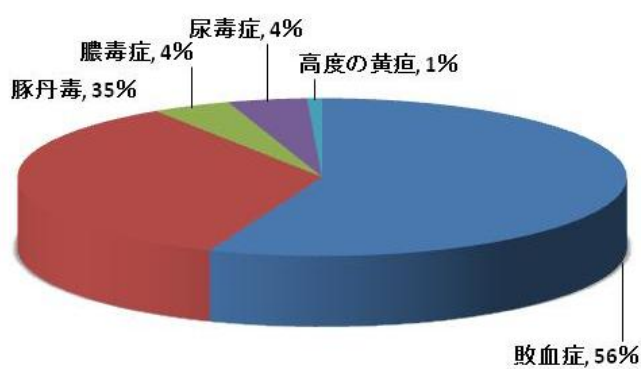
平成27年度の全部廃棄状況

福岡市食肉衛生検査所では、平成27年度に牛を23,499頭、豚を137,529頭検査しました。そのうち、一部廃棄（病変部のみを廃棄すること）となった牛は15,744頭、豚は95,757頭あり、全部廃棄（一頭丸ごと全て廃棄すること）となった牛は66頭、豚は118頭でした。全部廃棄理由として最も多い疾病は、牛では牛白血病（52頭）、豚では敗血症（66頭）でした。

牛の全部廃棄理由

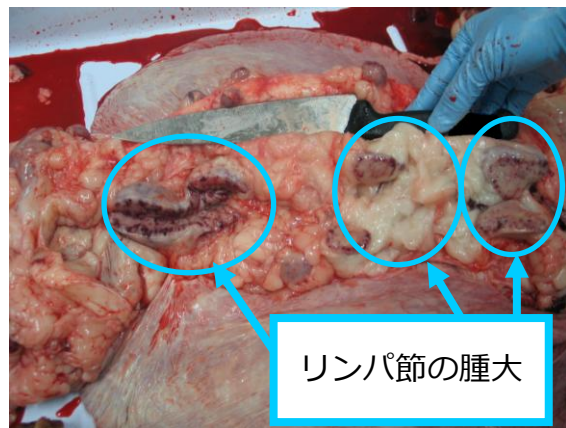


豚の全部廃棄理由



牛白血病

リンパ球の悪性腫瘍（いわゆる“がん”）で、アブの吸血等により牛白血病ウイルスに感染した牛の数%が発症します。発症した牛には、消瘦、眼球突出、全身リンパ節の腫大などの症状がみられます。生体検査時に発見された場合はとさつ禁止に、解体後検査時に発見された場合は全部廃棄になります。



敗血症

種々の細菌の感染による全身性炎症反応（発赤、腫脹など）を伴う疾病。感染による病巣から細菌が血液中に持続的に送り込まれ、全身汚染を引き起こします。

下の写真は心臓の弁に形成された疣状病変を示しています。敗血症を発症した豚で最もよくみられる病変です。

